

たちかわ創生総合戦略 事業実施結果シート

整理番号	14	戦略番号	3	戦略の方向番号	(1)	事業名	創業支援事業				
対応する戦略名		3. 強みを輝かせ、まちで暮らし働くしごとをつくる									
対応する戦略の方向		(1)商工会議所や金融機関などとの連携強化や立川の都市特性を生かした創業、オンリーワンとなりうる産業の創出・育成、地域経済を支える中小事業者の持続的発展の支援を促進することで、地域に根ざした魅力あるしごとを創出します。									
事業概要		市内創業支援団体(市・商工会議所・金融機関等)で発足した「たちかわ創業応援プロジェクト」において創業支援事業を実施し、創業者への周知を強化します。あわせて、コミュニティビジネスの普及啓発や創業支援を実施します。									
事業実施状況		・地域経済活性化推進員による相談窓口を185回開催し、のべ217人の相談を受けた。 ・創業希望者、創業して間もない方を対象に創業セミナーを2回実施した。 ・コミュニティビジネス普及啓発のセミナーを実施した。 ・上記セミナーの周知用に作成したチラシのほか、「たちかわ創業応援プロジェクト」で作成している広報紙を、創業者の方に郵送し創業事業の周知を行った。									
地方創生の観点から事業実施により得られた効果※		「たちかわ創生総合戦略」における本事業の重要業績評価指標(KPI)									
		指標名			相談件数						
		単位	戦略策定時の値 (25年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度目標値			
		件	136	191	217 (累計408)	-	-	1,000 2015(平成27)年度～ 2019(平成31)年度累計			
		・窓口で個別相談を実施することで、相談者のニーズに合った創業支援を行うことができた。 ・多様なアプローチで創業関連セミナーを開催したことで、起業に関心をもつ幅広い方々に「創業しやすいまち立川」をアピールすることができた。									
上記効果に対し、地方創生の観点からの課題及び平成29年度の事業展開		課題	国・都・近隣市の創業者助成制度及び創業者のニーズについて情報収集し、より効果のある創業者支援の制度設計を構築することが必要。								
		平成29年度の事業展開	三市創業支援事業協議会による、広域的な創業者支援。 たちかわ創業応援プロジェクトによる新たなセミナーの実施。 相談窓口の開設。								

たちかわ創業応援通信

立川市でこれから創業したいアナタ！立川市で創業したいばかりのアナタ！
5つの創業支援機関が力を合わせ、アナタを応援します！(〇)ト

★たちかわ創業応援プロジェクト 各機関からのお知らせ★

立川市 夢を形にするために！

創業・ビジネス支援セミナー開催！

★創業までの不安を解消するために準備すること
創業するにあたり直面する課題について、わかりやすくお話しします。

※詳細中

日時 3月4日(土) 14時～16時

講師 関クワイック・ワーカー 富山さつき 氏

★創業後の資金繰りや人の採用など、さまざまな悩

みについて具体的に学びます。

日時 3月13日(土) 14時～16時

講師 関クワイック・ワーカー 富山さつき 氏

立川商工会議所

★やってみよう！インバウンド対策！

～外国人お客様をGETして、売上アップ～

インバウンド対応の基礎知識と心構えを学んで

売上アップに繋げて下さい。

日時 3月11日(水) 14時～16時

場所 立川商工会議所 11階

日本政策金融公庫

★創業事例集(No.23)

「私たちのTurn Story」を発行しました。

〇のコーナーで創業した6社を紹介し

ています。

ご希望の方(無料配布)は、立川支店

にご来店いただくか、お電話でお問合

せください。

☎ 042-524-4191

※たちかわ創業応援プロジェクトとは？※

立川市で創業する！立川市で創業したい！という創業者のみなさまを

応援するため、上記の5団体が連携協定を結びました。みなさまが効率的に

支援を受けられるよう、サポートいたします。



創業支援TAMA

多摩信用金庫

★創業セミナー開催予定！

多摩地域の自治体や創業支援機関と連携して

セミナーを開催致します。

開催情報は創業支援センターTAMAのWEBサ

イトもしくはお電話にてお問合せください。

創業支援センターTAMA(事務局・多摩信用金庫)

TEL:042-526-7766

★キャリアアップ助成金のお知らせ

～人材育成に活用できる助成金～

「キャリアアップ助成金」は、有期契約労働者等の

非正規雇用労働者の企業内でのキャリアアップを

促進するための助成金です。立川商工会議所では、

所有型奨励型訓練IIに併せて助成金・指導者等の作成、

手続などについて無償でサポートしています。

★お問合せ 立川商工会議所 中小企業相談所

立川市社会福祉協議会

市民活動センターたちかわは、ボランティア・

NPO・立川のまちづくりに参加したい市民の相談窓

口です。NPO法人や任意団体の情報発信、印刷機

等の貸出し、講座やイベントの開催など、様々な形

で市民活動を応援しています。

団体運営、NPO法人に関するご相談を随時受け

つけております。

＜問合せ＞電話:042-529-8323

FAX:042-529-8714

E-Mail: shimin@tachikawa-shakyo.jp

★たちかわ創業応援プロジェクト創業相談窓口開設予定(3月&4月)★

以下の日程で、各機関が相談窓口を開設しています！
詳しくは右側の各コーナーをご覧ください。

3月	4月
1 水	1 土
2 木	2 日
3 金	3 月
4 土	4 火
5 日	5 水
6 月	6 木
7 火	7 金
8 水	8 土
9 木	9 日
10 金	10 月
11 土	11 火
12 日	12 水
13 月	13 木
14 火	14 金
15 水	15 土
16 木	16 日
17 金	17 月
18 土	18 火
19 日	19 水
20 月	20 木
21 火	21 金
22 水	22 土
23 木	23 日
24 金	24 月
25 土	25 火
26 日	26 水
27 月	27 木
28 火	28 金
29 水	29 土
30 木	30 日
31 金	

立川商工会議所(商工)

創業準備・起業相談等創業に関するご相
談を随時窓口でお受けしています。
また、創業に関するセミナーなども開催して
おります。

お問合せ:042-527-2700

月～金 9:00～17:00

※土・日・祝祭日・年末年始はお休み

場所 立川市曙町2-38-5

立川ビジネスセンタービル12階

多摩信用金庫(多摩)

事業計画策定支援

・創業やご融資のご相談

・インターネット・メール相談

随時お電話で予約受付中！！

創業支援センターTAMA

(事務局・多摩信用金庫)

お問合せ:042-526-7766

月～金 9:00～17:00

※土・日・祝祭日・年末年始はお休み

場所 立川市曙町2-8-3

新錦ビル3階

日本政策金融公庫(公庫)

小企業金融を担う金融政策の政策
金融機関です。ビジネスプランや事業計
画に添ったサポートをさせていただきます。

お問合せ:042-524-4191

月～金 9:00～17:00

※土・日・祝祭日・年末年始はお休み

場所 立川市曙町2-8-3

新錦ビル3階

市民活動センターたちかわ(活動)

NPO法人や任意団体などの市民活動を様々
な形で応援しています。

お問合せ:042-529-8323

月～金 8:30～19:00/土 8:30～17:00

※日・祝祭日・年末年始はお休み

場所 立川市社会福祉協議会

(立川市富士見町2-36-47)

立川市総合福祉センター

立川市役所(市)

「創業を支援しているんだけど...」「設立準備を教えてください」
そんなときは、立川市役所の地域経済活性化推進員による
相談窓口へどうぞ！

(●)総務課・金・第1第3土曜日 10時～17時(お昼休みを除く)

場所 立川市中央公民館(立川市曙町2-36-2)

(○)産業課・水曜日 13時～17時

場所 立川市役所(立川市曙町2-8-18)

※お電話でもお問合せください

お電話:042-529-8317

場所 たちかわWinセンター(立川市曙町2-8-18)

創業・ビジネス支援セミナー
創業に向けて夢を育てよう
～夢を具体化するために～

主催・立川市 協力・たちかわ創業応援プロジェクト

立川で創業を考える人、集合！！
参加無料

立川市産業観光課・立川市中央図書館

第1回：創業までの不安を解消するために準備すること

講師：株式会社クイック・ワーカー 代表取締役 富山 さつき 氏

日時：平成29年3月4日(土) 14:00～16:00(開場 13:30)

場所：立川市 中央図書館 4階

定員：30名(※申込順)

「夢を形に」するために、「活用できる補助金はあるの？」や「開業方法は法人？個人事業主？違いはなに？」などを一から学びながら、事業プランを考えます！
そのほかに、創業後すぐに直面する「利益とキャッシュの違い」や「金融機関からの借入金」などお金にまつわる話もします！
夢を叶える第一歩を、ここから始めましょう！！



携帯・スマートフォンからのお申込みはこちらから⇒⇒⇒

第2回：創業後に備えるポイントとは？

講師：株式会社クイック・ワーカー 代表取締役 富山 さつき 氏

日時：平成29年3月18日(土) 14:00～16:00(開場 13:30)

場所：立川市 中央図書館 4階

定員：30名(※申込順)

創業するには、必要な届出があり、自分で作ってみると意外と難しい...
そんな手続きの悩みから実際に経営して行く上で必要な資金繰りや人の採用にまつわる事例などなど...
多くの企業と関わってきたクイック・ワーカーだからこそ伝えられるノウハウを惜しみなく公開します！

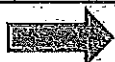


携帯・スマートフォンからのお申込みはこちらから⇒⇒⇒

★講師ってどんなひと？⇒裏面をご覧ください！

お申込み方法

電話



立川市中央図書館(TEL:042-528-6800)

パソコン



「東京共同電子申請 立川市」で検索し、「講座・講演会」からお申し込みください。

確認メールが送信されますので「@elg-front.jp」を受信できるようお願いいたします。

問合せ先 ⇒ 立川市中央図書館(TEL:042-528-6800) 立川市産業観光課(TEL:042-528-4317)

たちかわ創生総合戦略 事業実施結果シート

整理番号	15	戦略番号	3	戦略の方向番号	(1)	事業名	商店街空き店舗対策モデル事業				
対応する戦略名		3. 強みを輝かせ、まちで暮らし働きごとをつくる									
対応する戦略の方向		(1)商工会議所や金融機関などとの連携強化や立川の都市特性を生かした創業、オンリーワンとなりうる産業の創出・育成、地域経済を支える中小事業者の持続的発展の支援を促進することで、地域に根ざした魅力あるしごとを創出します。									
事業概要		商店街での開店希望者と商店街が共同で事業を提案するコンペ事業(商店街チャレンジャー募集事業)を実施し、商店街の魅力創出に寄与する店舗の誘致につなげます。									
事業実施状況		・協力商店街登録数 11団体 ・出店計画書提出数 2件 ・選考対象数 2件 ・表彰数 2件									
地方創生の観点から事業実施により得られた効果※		「たちかわ創生総合戦略」における本事業の重要業績評価指標(KPI)									
		指標名		奨励金を交付した店舗数							
		単位	戦略策定時の値 (25年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度目標値			
		店	-	1	2 (累計3)	-	-	10 2015(平成27)年度～ 2019(平成31)年度累計			
		空き店舗の減少により商店街が活性化したことに加え、商店街と開店希望者が地域ニーズを相互に理解し、事業を開始していくことで、商店街の魅力創出と地域コミュニティの向上につながった。									
上記効果に対し、地方創生の観点からの課題及び平成29年度の事業展開		課題	関係機関と協力して幅広く出店者に事業を周知すること、また応募を促進するために開設した空き店舗情報サイトの周知が必要。								
		平成29年度の事業展開	空き店舗情報を公開する情報サイトを平成28年11月に開設しており、情報サイトのさらなる周知を図るとともに、商店街の魅力向上につながる出店の誘致を支援する。								

～平成 28 年度 表彰店舗の概要～

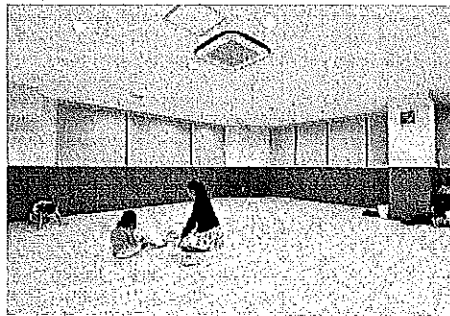
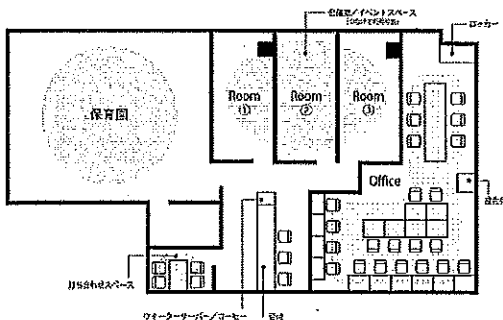
【最優秀賞】株式会社シーズプレイス(錦商店街振興組合)

●店舗概要

- ・保育園併設コワーキングスペースの運営
→女性専用共同オフィススペース、保育士による託児・保育可、レンタルスペース
- ・多摩地域では初（都内に1件あり）
- ・自分のペースで子育てと仕事を両立させる第3の働き方を提案

●審査員の評価

- ・女性の就業を妨げる原因である保育問題を解決する事業内容であり、正にみんなが待ち望んだサービスである
- ・商店街からの指示を待つのではなく顧客である女性たちの意見を集約し、それを商店街活動に反映させる機会を積極的につくっていくことで全国のモデルケースとなりうる
- ・飲食店等他の業種にはできない点で商店街と協働することができ、本事業の最優秀賞の良い事例としての見本となることに期待



【住所】

錦町 1-4-4

サニービル 2 階

【優秀賞】家庭料理の店 みちよ(諏訪通り商店街振興組合)

●店舗概要

- ・家庭料理風の居酒屋
- ・宮城県塩釜市などの市場より魚介類を、立川市より地場野菜を仕入れて提供
- ・平成 27 年度チャレンジショップコラボ卒業生

●審査員の評価

- ・地域の皆さまに支持される家庭料理の店として、安定した継続を図ることができる
- ・商店街内における名店として来街を促進する集客装置としての役割に期待



【住所】

柴崎町 2-3-15

浜中ビル 1 階

求む！魅力あふれる新店舗

商店街への優れた出店計画を表彰します

奨励金 115万円

最優秀賞(1組)

出店者 (チャレンジャー) 100万円
商店街(会) 15万円

60万円 チャレンジャー50万円
商店街(会) 10万円

優秀賞(1組)

出店前に地域のことをよく知りたい
自らをもっとも活かせる地域に出店したい
地域と良い関係を築いて共存共栄していきたい
このような願いを持つチャレンジャーの積極的な応募をお待ちしております

事業概要

- ◆自分を活かすことができる開店場所を探す「チャレンジャー」と、商店街エリアの活性化につながる店舗の開店を望む「商店街(会)」を結びつけることを目的とした事業です。
- ◆応募するチャレンジャーの皆さんには、商店街(会)の方と共同で出店計画書を作成していただきます。
- ◆市が出店計画を募集して審査し、表彰対象となった商店街(会)とチャレンジャーに奨励金を交付します。

＜詳しい事業内容をホームページでご覧ください＞

応募方法

立川市商店街連合会のサイト <http://www.tachikawa-shoren.com> をご覧いただきたいうえで、同連合会に電話 (042-527-2788) でご連絡ください

申請から表彰までの流れ

1 申し込み～マッチング

①立川市商店街連合会のウェブサイトへアクセス
<http://www.tachikawa-shoren.com>

②サイトを見て、出店したい商店街(会)を検討
サイトは随時更新しますので、掲載されている商店街(会)や掲載情報はご覧いただいた後から変わる場合があります。

③立川市商店街連合会に電話で申し込み
その際、出店したい店舗の業種と希望する出店先の商店街(会)をお伝えください。
立川市商店街連合会が、該当する商店街(会)と連絡を取ります。
※複数の商店街(会)を挙げても構いませんが、出店計画書作成の時点では1つに絞ってください。

④商店街とマッチング
出店したい店舗の業種と商店街(会)が求める店舗が一致する場合は、商店街から連絡が来ます。
共同で出店計画書の作成を進めることに双方で合意できたら、マッチング成立です。

2 出店計画書の作成

1月31日締切

①商店街(会)と共同で出店計画書を作成

出店計画書は市の様式をお使いください。
様式は立川市商店街連合会のホームページからダウンロードしてください。
※紙での送付を希望する場合はご連絡ください。

地域で成功するための情報や、商店街への波及効果などを中心に、商店街(会)のアドバイスを受けながら作成してください。

出店の準備は並行して行うってください(審査の時点で開店していても構いません)。

出店計画や店舗移転等に関しての相談は、立川市産業観光課の地域経済活性化推進員にお受けします。
また、便利都市の調査あつせん制度もあります。
詳しくは市庁舎をご覧ください。同課のお電話ください。 ☎042-528-4317

②立川市商店街連合会に提出 (平成29年1月31日必着)

3 出店計画書の審査・表彰

2月実施予定

① 専門家等からなる選考委員が出店計画書を審査

店舗の魅力・店舗の経営力安定性・商店街への波及効果などの観点から審査します

② 表彰する出店計画を決定・商店街(会)に奨励金を交付

最優秀賞115万円 (商店街(会)分=15万、チャレンジャー分=100万)

優秀賞60万円 (商店街(会)分=10万、チャレンジャー分=50万)

③ 出店後、商店街(会)からチャレンジャーに奨励金を交付

表彰時点ですでに出店済みの場合は、ただちに交付となります。

平成29年3月31日までに出店しなかった場合は、表彰を取り消します。

4 フォローアップ

応募いただいたすべての方が、出店計画を練った商店街(会)のエリア内への出店とその後の経営の成功につながるよう、フォローアップします。

◆商店街(会)のフォローアップ

表彰対象となった場合はもちろん、表彰対象とならなかった場合でも、その地域での出店を実現できるよう、商店街(会)が店舗探しや出店後の経営などに関する相談を受け付けます。

◆立川市の支援事業

出店後の経営についての専門的な相談は、立川市産業観光課の地域経済活性化推進員がお受けします。

出店に必要な事業資金の融資あっせん制度もあります。

詳しくは市HPをご覧ください。同課にお電話ください。

☎042-528-4317

お問い合わせ先

立川市商店街振興組合連合会 ☎042-527-2788

申請にあたっての注意

◎チャレンジャーの要件

チャレンジャーは、以下のすべての要件を満たす必要があります。

(1) 個人にあってはその方、法人にあっては当該法人に市税の滞納がないこと。

(2) 商店街に加入すること。

(3) 中小企業基本法 (昭和38年法律第154号) 第2条に規定する中小企業者 (風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律 (昭和23年法律第122号) 第2条に規定する営業を行う者を除く。) 若しくは団体 (政治活動又は宗教活動を行う団体を除く。) の代表者であること、又はそのような者となる予定であること。

(4) 応募する出店計画が現に市内に存する店舗を移転するものでないこと。

◎応募する事業の要件

・ 出店場所は「空き店舗」(かつて店舗として利用されており、その後営業されていない状態 (その状態となることが見込まれる場合も含む) の不動産) に限ります。新築の建物は「空き店舗」に含みません。

・ 平成28年3月31日現在ですでに不動産の賃貸借契約または取得をしている方は、チャレンジャーになることはできません。

・ 平成28年4月1日以降であれば、審査結果を待たずに不動産の賃貸借契約または取得、開店をしても構いません。

・ 奨励金の交付は、平成29年3月末までに開店することを条件とします。

平成29年3月末までに開店しなかった場合は、表彰を取り消します。

◎表彰後における注意

次に該当する場合は表彰を取り消し、すでに奨励金を交付している場合は返還していただきますので、ご注意ください。

(1) 出店計画の大幅な変更により、奨励金の交付が適当でないと認められたとき。

(2) 店舗を出店しなかったとき。

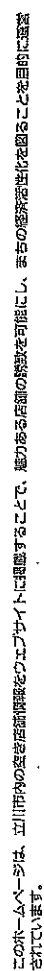
(3) 出店した店舗を出店計画に即した店舗とみなすことができないと市長が認められたとき、またはやむを得ない事情がある場合を除いて、出店から1年以内に出店計画に即した店舗とみなすことができない店舗に変更されたときと市長が認められたとき。

(4) 虚偽その他不正の手段により選定されたとき。

(5) 表彰店舗の出店に当たり法令違反があったとき。

(6) 表彰店舗の出店に当たり社会的信用を失墜させる行為があったとき。

(7) その他市長が必要と認められたとき。



物件種目を選択してください

ハートマークで公開されている物件で、物件種類が以下で登録されている物件を表示します。



蘇聯電影

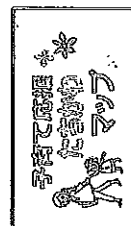


1000
1000
1000
1000
1000
1000

STEP 2 地区を選択してください。



関連サイト
Related Sites



ANEX
TACHIKAWA

立川市の商店街に
参加しませんか？

104511-タリサイト
まちなタ

立川まち
防犯ガイド
商店街
ガイドマップ

生野氏が移住したのは二つ

佐川市の廃棄物処理

[illegible]

たちかわ創生総合戦略 事業実施結果シート

整理番号	16	戦略番号	3	戦略の方向番号	(2)	事業名	若年者就業支援事業				
対応する戦略名		3. 強みを輝かせ、まちで暮らし働きしごとをつくる									
対応する戦略の方向		(2)産学官の連携による「顔の見えるマッチング」などを通じて、立川で暮らし働くことを希望する若者と多様で魅力ある市内事業者との交流を支援することにより、市内事業者の魅力を若者に伝え、就労や職場定着を促進します。									
事業概要		若年者就労対策に取り組むNPOのノウハウを活用し、就職相談窓口の開設や適正なマッチング、就職に向けたスキルアップ等を支援します。また、地域企業との連携を図り、インターンシップの受け入れ等を行います。									
事業実施状況		専門家による随時キャリア相談、就活セミナー、インターンシップや各種就職支援機関に関する情報提供を277回実施し、延べ530名が参加した。参加申込者26名に対し、就職などの進路が決定した人数は17名であった。また、本プログラムを経て就労を開始した方には、就業状況の報告を受け、働き続けるための相談とアドバイスを行った。									
地方創生の観点から事業実施により得られた効果※		「たちかわ創生総合戦略」における本事業の重要業績評価指標(KPI)									
		指標名		若年者就業支援事業による進路決定者数							
		単位	戦略策定時の値 (25年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度目標値			
		人	13	18	17 (累計35)	-	-	80 2015(平成27)年度～ 2019(平成31)年度累計			
		参加者各自が工夫と改善を繰り返して成功体験を積み上げていくプログラムを各種経験していくことで、立川で暮らす若者が、働くことへの自信をつけるとともに、働き続けるためのスキルを身に着けることができた。									
上記効果に対し、地方創生の観点からの課題及び平成29年度の事業展開		課題	若者の自立支援や地域経済活性化の観点から、若年者と市内中小企業とのより多くのマッチングや、庁内の関係セクションとの連携強化が必要である。								
		平成29年度の事業展開	昨年度に引き続き、参加者ごとの事情へ柔軟に対応できるように随時募集を行い、事業を継続している。								

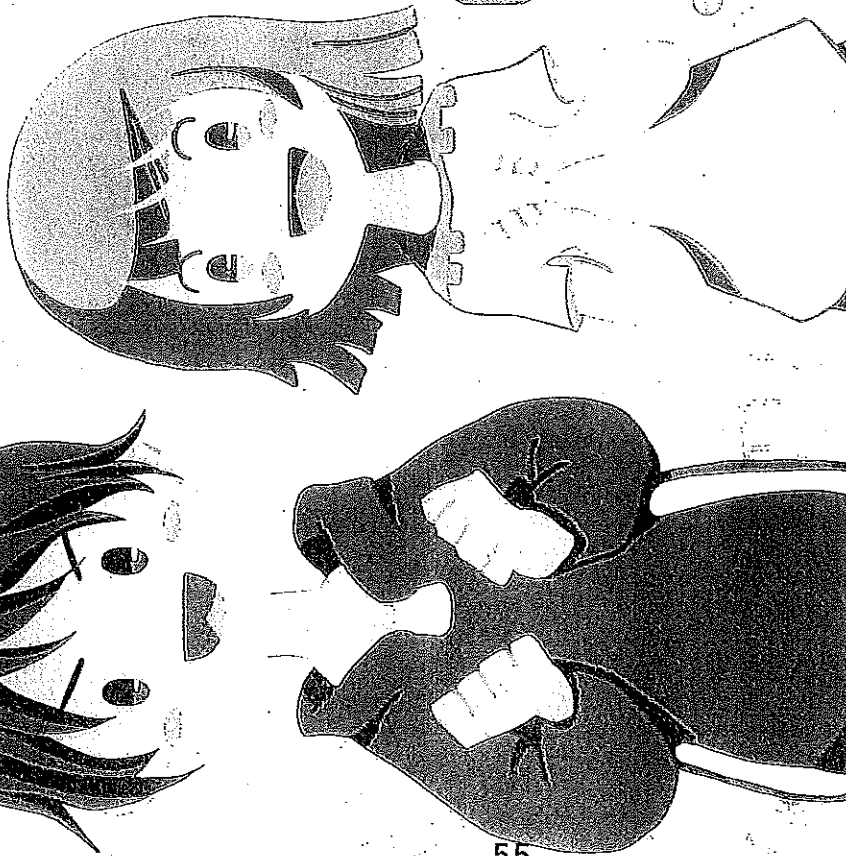
若者のための就職活動応援プログラム参加者募集!

立川市若年者就業支援事業

マイチャレンジたちかわ

(主催) 立川市、認定 NPO 法人育て上げネット

随時募集



「“社会人”ってなんだろう、働くイメージが持てない!」

「安心して相談できる人がいたらなあ」

「勉強面でも不安が…」

「高校中退、これからどうしよう!」

『仕事体験やセミナーを通じて就職はつながる
一歩を踏み出したのだ!』

そんなあなたを立川市が応援します!!!

立川市内在住・在勤・在学の高校生・大学生・専門学生・中退者・中卒者、
卒業生、就職活動を始め、おおむね15歳～25歳対象!

ご相談は随時受け付けております。お気軽にご連絡ください。

場所 認定 NPO 法人育て上げネット (地図は裏面)

要予約

お問い合わせ
お申込み

認定 NPO 法人育て上げネット 042(527)6051 mc@sodateage.net 担当: 齋藤、渡辺
メールでのお問い合わせ・お申込みの際は ①氏名(ふりがな) ②年齢 ③申込み動機 ④連絡先(電話&メール)をご記入のうえお送りください。

プログラムの内容

働きたいけれどどうしていいかわからない、そんな方が自信をもって仕事探しができるようにスタッフがサポートをします。

専門家による
随時相談

× 就活セミナー

× 地域しごと体験

ハローワークなどの
紹介

個別支援プログラムの作成
マンツーマンで応援します

プロによる就活基礎トレーニング
PC講座

期 間

対 象

5ヶ月間

15~25歳

公式サイトからも チェック! 

<http://www.sodateage-mc.net/>

■認定NPO法人育て上げネット

<http://www.sodateage.net/>

 @sodateagenet

■立川市

<https://www.city.tachikawa.lg.jp/>

 @tachikawa_tokyo

場 所

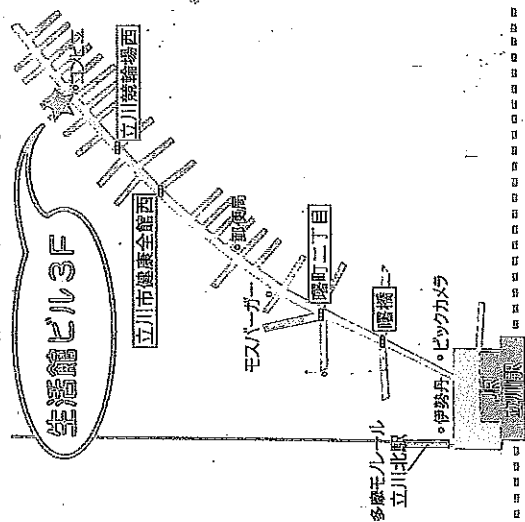
認定NPO法人育て上げネット

〒190-0011

東京都立川市高松町 2-9-22

生活館ビル 3F

JR「立川駅」北口よりより徒歩15分



たちかわ創生総合戦略 事業実施結果シート

整理番号	17	戦略番号	3	戦略の方向番号	(3)	事業名	職場体験学習の推進				
対応する戦略名		3. 強みを輝かせ、まちで暮らし働くしごとをつくる									
対応する戦略の方向		(3)小学生から高校生までの各年代に応じたキャリア教育の展開や地元事業者の素晴らしさを知ってもらう取組を推進し、児童・生徒一人ひとりの勤労観・職業観を社会全体ではぐくみ、将来の地域社会・産業を担う人材を育成します。									
事業概要		経済団体等と連携して職場体験学習の充実を図り、中学生の望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、自己の生き方やキャリア形成を考えさせ、主体的にまちや社会とかかわり、自己実現を図ろうとする意欲や態度を培うキャリア教育を推進します。									
事業実施状況		立川市立全中学校の第2学年の生徒が、立川市内及び近隣他市の事業所において、4日または5日間の職場体験学習を行った。									
地方創生の観点から事業実施により得られた効果※		「たちかわ創生総合戦略」における本事業の重要業績評価指標(KPI)									
		指標名		東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査(質問紙調査)における社会貢献の設問で肯定的な回答をした児童・生徒の割合							
		単位	戦略策定時の値(25年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度目標値			
		%	小学校 90.6 中学校 86.6	小学校75.1 中学校84.0	小学校73.6 中学校84.2	-	-	小学校 95.0 中学校 90.0			
		中学校においては、職場体験学習だけでなく、姉妹都市中学生サミットにおける交流で、大町市の中学生とともに立川市内を見学したり、成果発表をしたりするなどの活動を通して、地域や社会に目を向ける意識が育っている。 また、小中連携教育を進める中で、中学生が職場体験学習の感想や成果を小学生に伝える取組を行う中学校もあり、勤労観・職業観の育成が小学生に広がりつつある。									
上記効果に対し、地方創生の観点からの課題及び平成29年度の事業展開		課題	特に小学校における社会に貢献しようとする意識の低下が続いている。小中連携教育における前述のような他の手本となる取組も行われているので、立川市民科等とも関連付けてキャリア教育を充実させていくとともに、地域との触れ合いや様々な体験活動を通して視野を広げさせ、中学校における職場体験学習への期待と意欲をもたせていくことが課題である。								
		平成29年度の事業展開	職場体験学習は、5日間の実施をさらに推進する。そのため、受入事業所の開拓をハローワーク等との連携を図りながら進めていく。 職場体験学習や姉妹都市中学生交流事業等での中学生の成果を小学生に伝えるなどしながら、児童・生徒に多角的な視野をもたせ、一人一人に勤労観・職業観を培っていく。								

Q どのような仕事をさせればよいでしょうか？

A 特に危険な仕事でなければ、どのような仕事でも構いません。

その仕事の意義や大切さを説明していただき、どのような仕事でも大切な仕事であることを学ばせてください。



Q 当日の欠席や早退がある場合、どうしたらよいのでしょうか？

A 欠席の場合は基本的に事前に学校から連絡がありますが、連絡がなく出勤しない場合や早退する場合は学校へ連絡してください。



Q 生徒の意欲が見られない場合、どうしたらよいのでしょうか？

A 認めたり、励ましたりしながら支援していただくとともに、働くことが人の役に立ったり、社会のためになったりすることを教えてください。それでも改善されない場合は、学校へ連絡してください。

58

Q 生徒がお客さんにけがをさせたり、物を壊したりした時はどうしたらよいのでしょうか？

A けがの程度により、応急処置や救急車の要請をお願いします。同時に、学校へもご連絡ください。

また、物品の破損等についても、学校へ連絡してください。状況により、保険対応させていただきます。



Q 活動中の生徒の写真を撮影してもよいのでしょうか？

A 写真を撮影すること自体は問題ありませんが、お店のホームページや、個人のSNSに公開する場合は、必ず学校を通じて保護者の許可を得てください。

Q 4日間や5日間のプログラムはどうやって決めればよいのでしょうか？

A 別紙のプログラム例を参考に、学校と相談して決めてください。

その他、予期せぬ事態や判断に迷う事態が発生した場合は、遠慮なく学校へ連絡してください。必要がありましたら、立川市教育委員会へご連絡ください。

お問い合わせ先：立川市教育委員会（電話042-523-2111 内線2497~2499）

立川市キャリア教育Week

中学生の職場体験

立川市においては、「立川市民科」の学習等により、学校での学習を将来役立てようと思う児童・生徒の育成を図っています。



描こう未来図

立川市の子どものたちの夢さがし

立川市教育委員会

概要・目的

1

<概要>

- 東京都教育委員会主催の「わく（Work）わく（Work）Week Tokyo（中学生の職場体験）」事業の一環として実施します。
- 中学校2年生において実施します。
- 「総合的な学習の時間」として、4日～5日間実施します。
- 各校おおむね3～4名程度の生徒が、9時～15時を目安として体験します。



<目的>

- ◇ 仕事を体験することにより、「望ましい勤労観や職業観」を身に付けさせます。
- ◇ 学校とは違う社会で学ぶことにより、「社会性やマナー」を身に付けさせます。
- ◇ 職場の方々やお客様、利用者等、多くの方々との関わりを通して「コミュニケーション力」を身に付けさせます。

期待される効果

2

【生徒】

- ・働くことの意義を知ることができ、働くことの大変さや素晴らしさ、仕事が人々の生活にどのように役立っているかを考えるきっかけになります。
- ・人と人との関わり大切さを学ぶことができます。
- ・一人一人の大切さと、チームワークの重要性を理解するきっかけになります。
- ・挨拶や時間を守ることの大切さを学び、学校での学習や生活が、社会でどのように役立つのかを考えるきっかけになります。

【事業所・地域】

- ・従業員の接遇の向上や今の仕事に誇りをもつなど、就労やコミュニケーション等に対する意識の向上が期待できます。
- ・地域に身近な事業所として、好感度を上げることができます。
- ・生徒の新たな一面を発見し、その後の関係づくり等のきっかけになります。



受入から終了までの流れ

3

① 依頼

→教員から職場体験の概要、日程、人数等、予定等について説明し、依頼させていただきます。

② 打ち合わせ

→生徒が訪問し、出退勤時刻や主な仕事内容、服装や持ち物、風食等について打ち合わせをさせていただきます。



③ 体験

→体験中、学校の教員が指導・助言や記録・確認等のために訪問します。

④ お礼

→体験後、お礼状を送付または持参し、感謝の気持ちを伝えます。

4

5日間の実施例

【緊張の1日目】

オリエンテーションにより体験内容を確認し、実際の体験を行う。

【覚える2日目】

多くの時間を体験に充て、仕事を覚え、職場の一員の自覚をもつ。

【慣れる3日目】

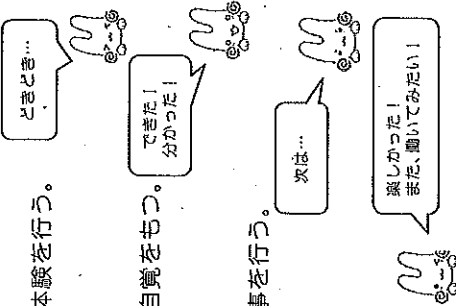
職場の方々とのコミュニケーションを図り、円滑に仕事を行う。

【覚える4日目】

相談したり提案したりして、自ら考えて仕事を行う。

【感動の5日目】

4日間の体験で働く楽しさや大変さを味わったり、職場の方々にお世話になった有り難さを感じたりすることで、感動を覚える。



たちかわ創生総合戦略 事業実施結果シート

整理番号	18	戦略番号	3	戦略の方向番号	(3)	事業名	地域ものづくり力発見事業				
対応する戦略名		3. 強みを輝かせ、まちで暮らし働かしごとをつくる									
対応する戦略の方向		(3)小学生から高校生までの各年代に応じたキャリア教育の展開や地元事業者の素晴らしさを知ってもらう取組を推進し、児童・生徒一人ひとりの勤労観・職業観を社会全体ではぐくみ、将来の地域社会・産業を担う人材を育成します。									
事業概要		地域の生産現場を訪れ技術者の話を聞くことで、日本経済を支える「ものづくり」の技術力を体感し、ものづくり産業への理解を深めるとともに、職業観を育成します。									
事業実施状況		市内小学生とその保護者を対象に、夏休み期間を利用して実施。市内の各種信号の製造等を行っている工場において、工程のしくみや過程などを17組の親子が見学した。									
地方創生の観点から事業実施により得られた効果※		「たちかわ創生総合戦略」における本事業の重要業績評価指標(KPI)									
		指標名		工場見学参加組数							
		単位	戦略策定時の値 (25年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度目標値			
		組	15	13	17 (累計30)	-	-	75 2015(平成27)年度～ 2019(平成31)年度累計			
		工場見学の参加者からは高い満足度を得られており、市内事業者のすぐれた技術力を知り、興味をもってもらうことで、児童の勤労観・職業観の育成に寄与している。									
上記効果に対し、地方創生の観点からの課題及び平成29年度の事業展開		課題	・受け入れ事業所の負担を考慮し、選定していく必要がある。 ・平成29年度より市の委託料廃止に伴い、事業者の自主財源等による事業の推進が必要である。								
		平成29年度の事業展開	・立川商工会議所の自主事業として、引き続き、事業を推進する。 ・事業の周知啓発等については、市として、継続して実施する。								

平成28年度地域ものづくり力発見事業（夏休み親子工場見学会）結果報告

子どもたちが夏休みの機会に、社会学習の一環として、市内で製造されている製品への認識、企業活動に対する理解を深め、コミュニケーションを図ることにより、地域産業の活性化に資することを目的に実施しました。

実施日

- ①平成28年8月19日（水曜日）午前10時～11時30分
- ②平成28年8月19日（水曜日）午後1時30分～午後3時

参加者内訳

①2016/8/19（午前の部）

関 係	学 年	男	女
親子	4年生		1
	6年生		1
親子	3年生	1	
親子	3年生	1	
親子	3年生		1
親子	3年生		1
親子	3年生		1
	6年生		1
親子	5年生		1
親子	3年生		1
	5年生	1	

②2016/8/19（午後の部）

関 係	学 年	男	女
親子	5年生	1	
親子	3年生	1	
親子	4年生	1	
親子	6年生		1
親子	3年生	1	
	5年生		1
親子	1年生	1	
親子	5年生	1	
親子	1年生	1	
親子	1年生		1

参加人数	学 年						
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合 計
①19名(8組)	0	0	6	1	2	2	11
②19名(9組)	3	0	2	1	3	1	10
38名(17組)	3	0	8	2	5	3	21

見学先・内容

交通システム電機株式会社(立川市)

交通システム電機株式会社は、昭和12年に創業して以来、道路信号システムや鉄道信号システム、駐車システムなど、交通インフラに関わる事業を中核に事業推進しています。また、安全・安心を通しての社会への貢献と同時に「地球環境の保全」に努めることも企業の責任と考え、省エネルギー化、省資源化に積極的に取り組んでいる会社です。

全2回の見学会で、17組38名の親子が参加し、社員の方の説明を伺いながら、信号機のしくみや製造過程などを見学しました。その後の工作では、ソーラーで動くカモメの作成を実施しました。社員の方にお手伝いをいただきながら、楽しそうに体験を行っていました。普段の生活で見慣れている信号機ですが、間近で見ることができ、製造工程には子供のみならず、父兄も興味深そうに見学している姿が見受けられました。

参加費

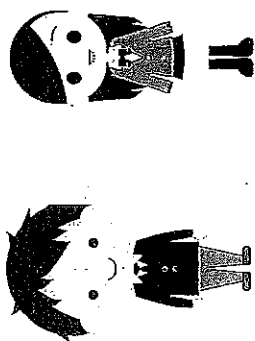
無料

たちかわ創生総合戦略 事業実施結果シート

整理番号	19	戦略番号	4	戦略の方向番号	(1)	事業名	タウンミーティング開催事務				
対応する戦略名		4. 交流と連携を広げ、安全・安心で暮らしやすいまちをつくる									
対応する戦略の方向		(1)地域とのつながりが希薄化しているため、孤立化防止のための見守り活動やネットワークづくりのさらなる推進を図るとともに、市民力・地域力を最大限に生かし、地域における交流の場や活躍の場づくりなど、立川に暮らす若者や学生、市外からの転入者等がひとやまちとつながるきっかけづくりを進めます。									
事業概要		市長が高校生や大学生などを対象に意見交換を行い、若者の意見や意識を明確に把握するとともに、若者が地域とつながるきっかけづくりを進めます。									
事業実施状況		高校生世代と大学生世代を対象としたタウンミーティングを実施した。 高校生世代は市内の高校と連携し、開催前にワークショップを行い、立川の魅力や課題について意見をまとめたうえで、市長との意見交換を行い、21名の参加があった。大学生世代は(公社)学術・文化・産業ネットワーク多摩と連携し、多摩地域の大学生世代に開催周知を行うとともに、参加者には立川市の人口等の統計データを事前配布し、立川の現状を踏まえたうえで、市長との意見交換を行い、28名の参加があった。また地域別や子育て世代等の対象者とのタウンミーティングも開催し、若者(10代～30代)の参加者数は30人であった。									
地方創生の観点から事業実施により得られた効果※		「たちかわ創生総合戦略」における本事業の重要業績評価指標(KPI)									
		指標名		若者(10代～30代)の参加者数							
		単位	戦略策定時の値 (25年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度目標値			
		人	17	63	79 (累計142)	-	-	150 2015(平成27)年度～ 2019(平成31)年度累計			
		昨年度に引き続き、高校生世代や大学生世代といった若者のみを対象とした回を実施したことにより、多くの若者が参加することができた。また、市長が丁寧に立川の現状や課題等を説明し、若者にとっては、地域とのつながりを認識し、これからのまちづくりについて理解を深めることができ、市政等に関心を持つきっかけづくりとなった。									
上記効果に対し、地方創生の観点からの課題及び平成29年度の事業展開		課題	10代から30代の若者の参加が昨年度より増加した一方、地域別のタウンミーティングでは、10名前後といった参加者が少ない回の開催があり、また、18歳から39歳の1,200人に無作為抽出で勧奨したが、4人のみの参加にとどまるなど、これまで参加されていない新たな参加者を集めるための周知の方法を検討する必要がある。								
		平成29年度の事業展開	引き続き、高校生世代や大学生世代といった若者のみを対象とした回を実施するとともに、SNSやダイレクトメール等を活用し、市内在住の若者に対し参加を呼びかけていき、戦略の方向である若者がひとやまちとつながるきっかけづくりを進めていく。								

市長と 語ろう！ 高校生世代対象

2016 11/20(日)
12:30~15:30



会場 都立砂川高等学校

●タイムスケジュール

- 12:30 集合
- 12:35 プログラム①「グループワーク」
(立川市の紹介、アイデアを考えよう)
- 14:00 プログラム②「市長と語ろう」
(市長が参加しての意見交換会)
- 15:30 終了



立川市
Tachikawa City

『にぎわいとやすらぎの交流都市 立川』

詳細・応募方法

高校生世代の皆さんが思い描く「立川がこんなまちになるといい」といったイメージなどについて、皆さんと市長との意見交換会を開催します。

意見交換会の前にはグループワークで立川市の「今」について勉強し、一緒にアイデアを考えます。グループで考えるので一人での参加も心配なし！ぜひ、一緒にまちの未来を考えましょう。

- ▶対象者 = 立川市内の高校に通学している高校生
立川市内にお住まいの高校生（及び高校生世代のかた）
- ▶日時 = 平成28年11月20日（日）12:30~15:30
- ▶場所 = 都立砂川高等学校3階視聴覚室
（立川市京町935-4）モノレール「泉体育館駅」徒歩3分
- ▶人数 = 30名程度
- ▶申込み方法 = メール・FAX・電話にて受付（下記必須事項記載）
【必須記載事項】①氏名（ふりがな）②年齢③住所④電話番号⑤メールアドレス⑥（通学の場合は）学校名

11月14日（月）※切

▶申込み先 = 立川市総合政策部企画政策課

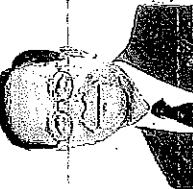
メール：kikakuseisaku@city.tachikawa.lg.jp

FAX：(042) 521-2658

電話：(042) 523-2111 内線 2688



(メールQR)



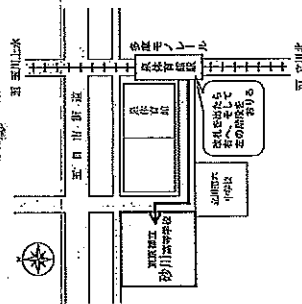
清水庄平市長

昭和20年8月8日生まれ

平成19年9月から立川市長

立川市西砂町在住

趣味：園芸



お問い合わせ

立川市 総合政策部 企画政策課

※（代表）042-523-2111（内線2688）

FAX 申込票 FAX:(042)521-2653

お名前 氏名	年齢	電話
住所		
メールアドレス	学校名	



市長との意見交換会
大学(院)生世代対象

にぎわいとやすらぎの交流都市 立川

2016.12.11
SUNDAY 14:00~15:30

●意見交換会終了後は、参加者同士の交流会の時間を設けます(退場自由)



●事前申込み締切り

12月5日(月)

●当日参加受付あり

※当日参加は、お席をご用意できない場合があります。

詳しくは
市HP

お問い合わせ

立川市 総合政策部 企画政策課
☎(代表) 042-523-2111 (内線2688)

市長と語るう!とは

将来におけるまちづくりについて、立川市長と直接意見交換ができる場です。大学生世代の方を対象に開催します。皆さんの自由なご意見をお寄せください。

また、意見交換の参考として、立川市の現状・課題分析や市長からの質問等の検討資料を事前にお送りします。立川市の現状や課題分析等を踏まえ、一緒にまちの未来について考えましょう。

開催概要

詳しくは→市ホームページ <http://www.city.tachikawa.lg.jp/kikakuseisaku/20161024-1.html>

▶対象者

・多摩地域の大学に通学する大学生

・立川市内在住の大学生(院生)

・立川市内在住、在勤の18歳~26歳程度の方

▶日時 平成28年12月11日(日)14:00~15:30 人数 30名程度

※意見交換会終了後は、参加者同士の交流会の時間を設けます(退場自由)

事前申込み

12月5日(月)まで

▶申込み方法 メール・FAX: 電話にて受付(下記の事項を記載してください)

【必須記載事項】①氏名(ふりがな)②年齢③住所④電話番号⑤メールアドレス⑥学校名

▶申込み先

立川市総合政策部企画政策課

メール: kikakuseisaku@city.tachikawa.lg.jp

FAX: (042)521-2653

電話: (042)523-2111 内線 2688



(申込みメールQR)

当日参加受付

▶当日、直接会場にお越しください。

※事前申込み多数の場合、当日参加受付ではお席をご用意できない場合があります。

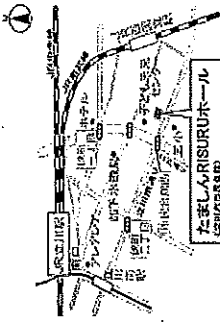
会場案内

「たましんRISURU ホール」

立川市緑町3-3-20

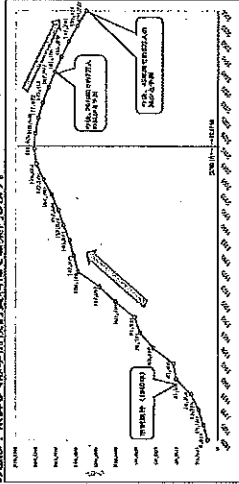
●JR立川駅南口徒歩13分

●多摩モラル立川南駅徒歩12分



課題分析(一例)

立川市の人口は今後、徐々に減少と予測されています。将来にわたって活力あるまちを維持していくために必要なもの、若い人が定住できるまちに必要なのは? ※詳しくは事前検討資料にてご案内します。



出典: 国勢調査(2015年推計) 国勢調査
資料: 国勢調査(2015年推計) 人口動態調査
資料: 国勢調査(2015年推計) 人口動態調査
資料: 国勢調査(2015年推計) 人口動態調査

FAX 申込票 FAX: (042)521-2653

氏名	年齢	電話
住所		
メール アドレス	学校名	

タウンミーティング開催状況

平成28年

1 対象者別

	対象者	開催日時	会場	参加人数			
				男 性	女 性	合 計	(内10～30歳代)
1	子育て世代	11月12日(土) 13:30～15:00	くるりん子育てひろば	5名	18名	23名	21名
2	高校生世代	11月20日(日) 12:00～15:30	都立砂川高校	6名	15名	21名	21名
3	大学生世代	12月11日(日) 14:00～15:30	たましんRISURUホール	13名	15名	28名	28名
4	立川市老人クラブ連合会(理事会)	2月7日(火) 14:30～16:00	柴崎福祉会館	71名	6名	77名	0名
5	経済人・企業人	2月16日(木) 19:00～20:30	たましんRISURUホール	7名	2名	9名	4名
合 計				102名	56名	158名	74名
割合				64.6%	35.4%		

2 地域別

	会場	開催日時	参加人数				無作為抽出
			男 性	女 性	合 計	(内10～30歳代)	無作為抽出 参加回答人数
1	幸福社会館	10月1日(土) 11:00～12:30	15名	17名	32名	1名	1名
2	西砂学習館	10月1日(土) 13:30～15:00	8名	9名	17名	0名	0名
3	たましんRISURUホール	11月12日(土) 10:00～11:30	15名	1名	16名	2名	1名
4	砂川学習館	11月20日(日) 10:30～12:00	7名	12名	19名	1名	1名
5	女性総合センター・アイム	12月11日(日) 10:30～12:00	8名	3名	11名	1名	1名
合 計			53名	42名	95名	5名	4名
割合			55.8%	44.2%			

総合計	155名	98名	253名	79名
割合	61.3%	38.7%		

たちかわ創生総合戦略 事業実施結果シート

整理 番号	20	戦略 番号	4	戦略の 方向 番号	(1)	事業名	(公社)学術・文化・産業ネットワーク多摩負担金 (多摩の学生コンペティション)
対応する戦略名	4. 交流と連携を広げ、安全・安心で暮らしやすいまちをつくる						
対応する戦略の方向	(1)地域とのつながりが希薄化しているため、孤立化防止のための見守り活動やネットワークづくりのさらなる推進を図るとともに、市民力・地域力を最大限に生かし、地域における交流の場や活躍の場づくりなど、立川に暮らす若者や学生、市外からの転入者等がひとやまちとつながるきっかけづくりを進めます。						
事業概要	多摩の大学生等による地域の課題解決に向けたまちづくりの提案のコンペティション事業を主催する、(公社)学術・文化・産業ネットワーク多摩を支援します。						
事業実施状況	『地方創生に向けてがんばる地域応援事業』の助成金を活用した「多摩の学生まちづくりコンペティション2016」の開催を支援した。学生が多摩地域でフィールドワークを行い、行政や企業等と連携しながら活性化策の提案を行った。選考会には、10大学23団体が参加し、6団体が本選に出場。多摩地域の各界の代表者や専門家で組織する審査委員会が審査を行い、優秀な提案には賞を贈呈した。						
地方創生の観点から事業実施により得られた効果※	「たちかわ創生総合戦略」における本事業の重要業績評価指標(KPI)						
	指標名		市内をフィールドとした提案事業数				
	単位	戦略策定時の値 (25年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度目標値
	事業	-	-	3	-	-	10 2016(平成28)年度～ 2019(平成31)年度累計
多摩の学生まちづくりコンペティションを実施することで、若者ならではの視点や感性を生かした課題解決の政策提言をまとめるとともに、産官学の諸団体が連携することで、実践的な事業展開のきっかけを提供することができ、多摩地域の魅力づくりや未来に活力を与え、地域活性化の推進に寄与することができた。							
上記効果に対し、地方創生の観点からの課題及び平成29年度の事業展開	課題	現状分析や企画検討の段階で、いかに適切に学生と行政、企業をコラボさせていくか、そして、良い取組をいかに継続性をもって事業展開していくかが課題である。また、ネットワーク多摩について、広域的な行政課題の解決に向け、現時点の加盟数を維持しながら様々な分野のより多くの団体の加盟を促進していく必要がある。					
	平成29年度の事業展開	引き続き、産官学の諸団体の連携による事業展開の支援を行うとともに、新たな事業や施策を展開していく上で、(公社)学術・文化・産業ネットワーク多摩を通じた大学のゼミ等の積極的な活用を検討していく。					

第3回 多摩の学生 まちづくり コンペティション 2016

本戦出場団体が決定

3回目の「多摩の学生まちづくりコンペティション」選考会が9月17日、明星大学日野キャンパスで行われました。10校22団体の学生が多摩地域全般でフィールドワークして得た活性化への道筋を発表。審査の結果、6団体が12月18日、立川市柴崎学習館で開かれる本選に臨みます。

後援：立川市、八王子市、日野市、多摩市、小金井市、羽村市、福生市、町田市、公益財団法人東京市町村自治調査会 協力：日本経済新聞社多摩支局



プレゼンテーションを聞く側も真剣



どの団体も緊張の面持ちで発表する学生たち



コンペを終え審査内容を吟味する審査委員たち

帝京大学湯川ゼミナール1班

日野市、八王子市、多摩市

小学生も大学生も学ぶ「たまっ子塾」開講！！ ～教育で魅力のあるまちに～

少子化の要因の一つとして、子育ての費用の高さが指摘されており、また、低所得者ほど教育費の負担が大きいことが明らかになっている。その中で、多摩地域の平均年収は、23区の平均年収と比較して大幅に低く、上述した問題が懸念される。そこで、多摩地域の大学で教員を目指す学生を講師とした無償塾を開設し、子どもに対する学習支援を行うことで、子育て費用の軽減を実現化する。

これらのことから...

- ・年収が低い世帯の教育費の負担が大きい
- ・保護者は子育ての経済的負担を減らしたい
- ・23区に比べて多摩地域の平均年収が低く、平均学力も低い



経済的負担なしで学力向上を図る！

教員を目指す学生が子どもたちに学校外の教育機会を提供。地域全体の学力向上を目指す。

審査委員コメント：子どもと大学生それぞれにメリットがある。大学もうまく巻き込んで講師の確保や質の維持などクリアしてほしいです。

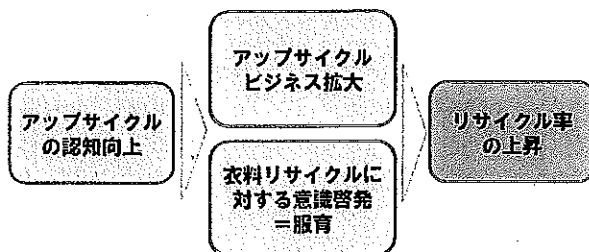
創価大学西浦ゼミ 衣料班

立川市

環境にやさしいまちづくり 衣類のリサイクルを推進する取り組み

日本において、衣類のリサイクル率は、アルミ缶や紙のそれに比べ非常に低い。その数値は、他国における衣類のリサイクル率と比較しても低く、日本は「衣類のリサイクル後進国」であると言える。そこで、私達は多摩地域においてファッション性が高く買い物が訪れやすい立川市で、衣類のリサイクル活動を行う。

アップサイクルの意義



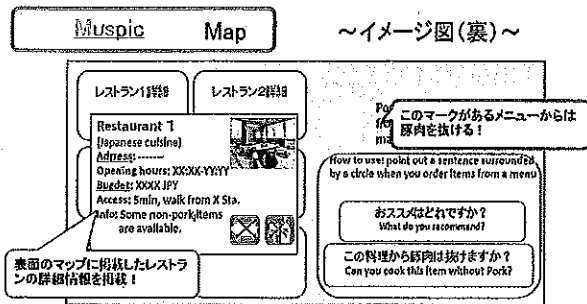
次世代のリサイクル「アップサイクル」による商品の開発・展示を行うとともに、衣料品を素材にしたオブジェを展示し、認知度の向上をはかる。

審査委員コメント：大量消費時代に「永久循環」をめざす大変チャレンジングなテーマ。廃棄量削減につながる効果まで示すと良いと思います。

ムスリムウェルカムタウン 八王子

ムスリムが安心して食を楽しめる街へ

商店街を活用して訪日ムスリムに対する食の安全化を図る。現在、訪日ムスリム人口は増加の一途を辿っており、今後もその傾向は続くと思込まれている。その一方で、ムスリムが順守するハラルのルールに沿った食の提供は多摩では進んでいない現状がある。八王子の商店街と連携しムスリムフレンドリーな製品を提供できるシステムを構築し、ムスリムの食の安全を保障する。またこの施策によって、商店街を基軸とした地域復興も図る。



ムスリムの宗教戒律品目をわかりやすくピクトグラム化。ムスリムフレンドリーなレストランをマップ化し、地域の活性化を図る。

審査委員コメント：東京オリンピックを4年後に控え、実現可能な提案だったと思います。これからの展開も頑張ってください。

瑞で繋がる多摩のまちづくり

～MIZU 沁み渡る TAMA らない旅プロジェクト～

多摩地域は、水が豊富で、地域の様々な物事は水をキーワードに結びつけられる。水を地域資源ととらえ、酒や森や田畑、農産物とともに情報発信する。その上で、多摩地域は豊かな水に関連した魅力的な場所や文化があると地域外の方、とくに20～30代の女性に知ってもらい、人口減少が進む中で、交流人口増加による地域活性化を図る。同時に、地域や人と関係を深める体験も提案し、再訪したくなるまちづくりを目指す。

関係づくり①



水を観光の中心にすることで、多摩地域に点在する様々なものを結び付けてアピールする。

審査委員コメント：「瑞」のキャッチネームは面白い。ターゲットを広げていくことで、さらに企画力がレベルアップすると思います。

学生をもっと主体的に！

地域を元気づけるのは学生(君たち)だ！

多摩地域の一角である八王子市は、21校の大学が存在し、10万人以上もの学生が学ぶ全国有数の学園都市である。しかし、大学生は学生時代に重要であると思っていることとその行動が結びついておらず、主体性が欠けているという現状がある。私たちは、八王子市の地域活性のためには、より主体的に学生が行動することが重要であると考え、地域の活性化を通して、学生の夢を追いかけるサポートをする施策を提案する。

使い切れない化粧品ありますか

92%
はい

はい いいえ 調査対象：女子大学生74人

多くの学生が使い切れていない化粧品を有効利用し、クラフト作りの体験教室への提供など、八王子市のものづくりに貢献する。

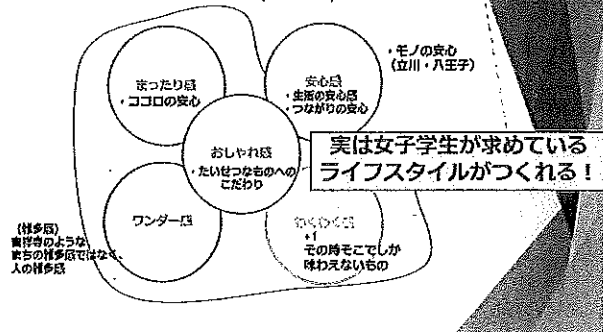
審査委員コメント：女性ならではの面白い着眼点だと思います。結婚式などとタイアップするのも良いのでは。

ローカルメディアの可能性の探求

学生に人気の高いまちづくりをねらいとするライフスタイルマガジン

日野市に住む・通う学生に向けたライフスタイル提案型マガジンの企画・発行を学生が行うものである。日野市は、水と緑の豊かな自然・都市農・こだわりのお店・活発な町会活動など、過ごしやすい多くの魅力があるにも関わらず、それに気づかず卒業し、日野を離れてしまう学生が多い。そこで、現代の女子大生の感性にマッチする日野ならではのライフスタイルを提案し、若い人を呼び込み、そのまま住み続けたいまちづくりに繋げたい。

「女子大生感性」×「日野らしさ(地域資源)」を重ねると...



女子大生ならではの感性で、地域の地域資源を掲載したライフスタイルマガジンを編集・発行することで、学生の町への愛着を深める。

審査委員コメント：女子大生の視点や注目度を活かした取り組みだと思います。地域住民とも連携してぜひ実現させましょう。